

# 現代社会文化研究科

## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

現代社会文化研究科は、現代社会学専攻、国際教養学専攻の2専攻からなり、各専攻は、本学の「独立自  
彊・社会有為」の教育理念のもとに、次の通り教育目的を定めている。

現代社会学専攻は、社会学に関する高度な専門的知識を基盤として、現代社会の全体像を多角的に研究す  
ることを通じて、複雑化する様々な社会問題の解決や地域社会の持続性を目指して学術研究する能力を  
備え、現代社会のイノベーションや地域社会の持続性に寄与する高度専門職業人を養成する。

国際教養学専攻は、国際的通用性のある教養と、英語あるいは日本語のより高い運用力を持ち、自らを深  
く知り、研究をとおして自らを不断に成長させる人材を育成し、国際共通語としての英語を活用して、世界  
中の異文化に視野を広げ、他者の価値観を尊重し、自分の生き方が相対化できる高度専門職業人、あるい  
は国際的視野から日本の伝統文化や最先端の文化および日本語についてより深く学び、自国文化を積極  
的に他者に発信することができる高度専門職業人を養成することを目的とする。

この教育目的に基づいて、本研究科では、以下の資質・能力を身に着けたと認められるものに、それぞれ、  
修士(社会学)、修士(地域創造学)、修士(国際コミュニケーション学)、修士(文学)の学位を授与する。

### 【現代社会学専攻】

#### 【現代社会コース】

- ① 社会学の方法・概念・理論に関する高度な専門的知識だけでなく、隣接する社会諸科学・人文諸科学の知識を修得している。
- ② 研究遂行の基礎となる、文献を読解するための語学力、資料収集・実地調査・分析能力、研究成果を発信する能力を備えている。
- ③ 各自の研究テーマに関して、先行研究を十分に踏まえ、正確かつ適切な資料収集・実地調査・分析や理論的考察を行い、論旨が明確であるだけでなく独自性・独創性のある論文として構築することができる。

#### 【スポーツ文化学コース】

- ① 社会学及びスポーツ科学の方法・概念・理論に関する高度な専門的知識だけでなく、隣接する社会諸科学・人文諸科学・自然諸科学の知識を修得している。
- ② 研究遂行の基礎となる、文献を読解するための語学力、資料収集・実地調査・分析能力、研究成果を発信する能力を備えている。
- ③ 各自の研究テーマに関して、先行研究を十分に踏まえ、正確かつ適切な資料収集・実地調査・分析や理論的考察を行い、論旨が明確であるだけでなく独自性・独創性のある論文として構築することができる。

#### [地域創造コース]

- ① 地域社会の課題解決策や地域創造に関する高度な専門的知識だけでなく、隣接する社会諸科学・人文諸科学の知識を修得している。
- ② 研究遂行の基礎となる、文献を読解するための語学力、資料収集・実地調査・分析能力、研究成果を発信する能力を備えている。
- ③ 各自の研究テーマに関して、先行研究を十分に踏まえ、正確かつ適切な資料収集・実地調査・分析や理論的考察を行い、論旨が明確であるだけでなく独自性・独創性のある論文として構築することができる。

#### 【国際教養学専攻】

#### [国際コミュニケーションコース]

- ① 国際共通語としての英語の高度な運用能力と英語学、英語教育学、英文学、文化地理学における方法・概念・理論に関する高度な専門的知識および国際的、学際的分野について複眼的視野のもとに獲得される知識を修得している。
- ② 研究遂行の基礎となる、文献を読解するための語学力、資料収集・実地調査・分析能力、研究成果を発信する能力を備えている。
- ③ 各自の研究テーマに関して、先行研究を十分に踏まえ、正確かつ適切な資料収集・実地調査・分析や理論的考察を行い、論旨が明確であるだけでなく独自性・独創性のある論文として構築することができる。
- ④ 言語の持つ構造、意味、機能などの理論や、第二言語としての英語の教授法、第二言語習得理論、英米文学や文化地理学の研究方法論などの領域の基礎的な知識を修得している。

#### [国際日本学コース]

- ① 日本語と日本文化に関する高度な専門的知識、および国際的、学際的分野について複眼的視野のもとに獲得される知識を修得している。
- ② 研究遂行の基礎となる、文献を読解するための語学力、資料収集・実地調査・分析能力、研究成果を発信する能力を備えている。
- ③ 各自の研究テーマに関して、先行研究を十分に踏まえ、正確かつ適切な資料収集・実地調査・分析や理論的考察を行い、論旨が明確であるだけでなく独自性・独創性のある論文として構築することができる。
- ④ 異文化との関わりの中で、日本文化の価値を総合的かつ相対的に研究する能力を有し、国際的視野および学際的視野から日本の伝統文化や最先端の文化を積極的に他者に発信することができる。

# カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)

現代社会文化研究科は、現代社会学専攻、国際教養学専攻の2専攻からなっており、各専攻はそれぞれのディプロマ・ポリシーに基づき、次の方針に従って、カリキュラムを編成する。

## 【現代社会学専攻】

### [現代社会コース]

- ① 社会学および社会調査に関する専門基礎知識・技能を習得させるために、専攻共通科目を必修科目として置く。
- ② 社会学領域およびメディア・表現領域に関する高度な専門知識を習得させるために、それぞれの領域において、文献研究や実地調査や調査結果の分析をも取り入れた多様な実践的研究科目を置く。
- ③ 学位論文の作成等の指導を行うために研究演習科目を必修科目として置く。

### [スポーツ文化学コース]

- ① 社会学および社会調査に関する専門基礎知識・技能を習得させるために、専攻共通科目を必修科目として置く。
- ② スポーツ科学に関する高度な専門知識を習得させるために、それぞれの領域において、文献研究や実地調査や調査結果の分析をも取り入れた多様な実践的研究科目を置く。
- ③ 学位論文の作成等の指導を行うために研究演習科目を必修科目として置く。

### [地域創造コース]

- ① 社会学および社会調査に関する専門基礎知識・技能を習得させるために、専攻共通科目を必修科目として置く。
- ② 地域創造に関する専門的知識を修得させるために文献研究科目を置く。
- ③ 政策系科目だけでなく、実地調査や調査結果の分析をも取り入れた多様な実践的研究科目を置く。
- ④ 学位論文の作成等の指導を行うために研究演習科目を必修科目として置く。

## 【国際教養学専攻】

### [国際コミュニケーションコース]

- ① 英語学、英語教育学、英米文学に関する専門分野の理論的な知識と実業界、教育界などの現場での実務実践をブリッジする教育課程を構築を目指す。そのために、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的かつ組織的な大学院教育の確立を目指す。
- ② 教育上の目的を達成するために必要な授業科目を置くとともに学位論文の作成等に対する指導を行うなど、体系的な教育課程を編成する。このため、授業科目および学位論文の作成等に対する指導科目をそれぞれ「専門科目」と「専門演習科目」に区分し履修する。

## [国際日本学コース]

- ① 日本文化を、世界との関わりの中で国際的かつ学際的に広く学ぶ科目群を配置する。
- ② 日本文化を、古代から現代に至る長い時間的推移の中で歴史的に学ぶ科目体系を用意する。
- ③ 文献を重視するのみならず、フィールドワークをも取り入れ、より実践的に学ぶ。
- ④ 国語および日本語教育分野における、高度な知識とその運用力を持つ教員を養成できるように、充実した科目を用意する。

## アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

現代社会文化研究科は、本研究科の教育理念及び教育目標にもとづき、以下のような人材を求める。

### 【現代社会学専攻】

現代社会学専攻は、社会学に関する高度な専門的知識を基盤として、現代社会の全体像を多元的に研究することを通じて、複雑化する様々な社会問題の解決や地域社会の持続性を目指して学術研究する能力を備え、現代社会のイノベーションや地域社会の持続性に寄与する高度専門職業人の養成を目指している。このため、以下の資質・意欲をもつ人材を求める。

- ① 現代社会学分野において研究するための基礎学力と学修意欲を備え、かつそれらを高度なものとするための努力を惜しまない者
- ② 現代社会学分野において、自ら主体的に研究課題を設定し、従来の学問体系や方法論を学んだ上で、これらにとらわれることなく、新しい研究成果を志向する意思と、論理的に考察する能力をもっている者
- ③ 特定の学問領域を学んでいく強い意欲をもち、修得した高度な専門的知識や自らの研究成果を職業に活かし、社会への還元を強く志す者

### 【国際教養学専攻】

国際教養学専攻は、国際的通用性のある教養と、英語あるいは日本語の高度な運用力を持ち、自らを深く知り、研究をとおして自らを不断に成長させる人材を育成する。特に、国際共通語としての英語を活用して、世界中の異文化に視野を広げ、他者の価値観を尊重し、自分の生き方が相対化できる高度専門職業人、あるいは国際的視野から日本の伝統文化や最先端の文化および日本語についてより深く学び、自国文化を積極的に他者に発信することができる高度職業専門人の養成を目指している。このため、以下の資質・意欲をもつ人材を求める。

- ① 英語あるいは日本語の高度な運用能力を有し、国際教養学分野において研究するための基礎学力と学修意欲を備え、かつその学力をより高度なものとするための努力を惜しまない者
- ② 国際教養学分野において、自ら主体的に研究課題を設定し、従来の学問体系や方法論を学んだ上で、これらにとらわれることなく、新しい研究成果を志向する意思と、論理的に考察する能力をもっている者
- ③ 特定の学問領域を学んでいく強い意欲をもち、修得した高度な専門的知識や自らの研究成果を職業に活かし、社会への還元を強く志す者